

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

『原発事故とこの国の教育』の出版によせて 出版人の使命感

文・長渡 晃

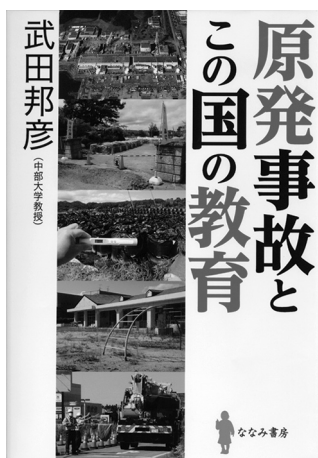
ななみ書房の紹介

2013年7月、ななみ書房を設立して9年目を迎えた。

17年間出版界で働いてきたが、この成り行きで小さな会社を始めることになった。いざ会社を設立するとすると知らないことばかりで、これで大丈夫なのかと思う時もあった。特に流通関係では頼るところがなく、「地方小」を紹介していただけたことはありがたかった。小さな想いでも道が開かれるようにと地方小の川上代表には、快く支援をしていただき改めて心より感謝を申し上げたい。

「専門家の知識を分かりやすく伝える」という理念は、多少地味かと思っただが、私なりの経験から得たことは、それなりに意外と難しく、真っ直ぐに追及していくことも一つの道だろうということであった。中心とする分野は、「子ども」に関する保育・教育などの専門書・テキストであり読者は主に学生である。学問の高さを下げることなく学生と指導者の立場から分かりやすく使いやすいものを作るためには、著者と編集者がきちんと同じ方角を向き、一致した目標をめざすという関係が必要で、そのためには編集技術以外の知力や体力も必要となる。

わが社の出版物の多くは、生み出すだけではなく長く面倒を見なければならぬ。法律や制度が変わるたび、統計が更新されるたびに常に最新のものが要求され、その作業に多くのエネルギーが必要となり、そのために著者との密な連携が必要で深く長い付き合い



『原発事故とこの国の教育』 武田邦彦著 / 定価：本体1200円＋税 / ISBN978-4-903355-34-4 / 四六判・144ページ / 発行：ななみ書房

が欠かせない。

そうした繰り返しによる共鳴によって、心を合わせて仕事ができる本物の専門家であり且つ一流の書き手でもある人たちに辿りついてきた。

2011年3月の衝撃によって

2011年3月に起きた東日本大震災の報道は多くの出版人にその使命をさまざまに意識させたであろう。その後起きた福島原発事故は収束の方向も見えないまま、1000日という長い時間が過ぎてしまった。私たちはどの専門家の意見が正しいのか、国民がそれまでのように安全に暮らせるために、見通しを示せる知患者はだれなのかを知りたがっている。多くの専門家が

「震災」「津波」「原発」「放射能」についてさまざまな知識を披露してはいるが、中にはまったく違ったことを言っている場合も多い。また、「地球科学」「原子力」「放射能」など予備知識の少ない分野のことをただ難解に解説されても、素人には理解し判断することが難しい。

確かに「原子力」や「放射能」には、「専門家」と呼ばれる方は多いのだろうが、しかし、「技術力」という日本の看板は、原発の崩壊によってかなり疑わしいことが分かったことで、その専門性も怪しくなった。あるいは、絶対に安全なものを作る技術はあっても実行されないだけなのか、いずれにしても「どんなことがあっても国民の安全は守る」という専門家の精神力が足りなかったように思える。

また、これだけの混乱を治める統べが見出せないことから、諸問題を解決し、再び起こらないよう人々を守るといった大きな課題を解決するためには、科学技術教育の問題だけではなく教育体制の問題などの議論もでき、科学的思考で社会を見渡せる別の「専門家」が必要なのだと思う。

時が進むにつれ、テレビ・新聞は報道を控え、雑誌や書籍は「原発推進派と反対派」に分かれた極端な議論に終始する傾向にある。そのような中、『原発事故とこの国の教育』では、「原発事故とはどういうものだったのか」、そして子どもたちのことが忘れられていることを取り上げ、教育界がまったく機能していないことに警鐘を鳴らしている。

大人の身勝手な利益と引き換えに多くの子どもたちが被曝をし、生活の場を失い、将来と健康に不安を持ちながら生きることを余儀なくされている。事故が起きる前は、教育界は子どもを守り、教育を保障し、育むところであったはずである。しかし、経験したこ

とのない大きな事故が起きた後、子どもを非難させられなかったり、逆に放射能被曝の基準を緩めたり、被災地を励まそうとあえて危ないところに子どもを行かせたりという行為は、教育界が「リスクシフト」に陥った結果であろうと思われる。

「原発事故がどういうものであったか」という総括と同時に「教育界では何が必要であったか」ということをこの際しっかりと理解し、今後のために備えをすることはこれからの課題なのだが、政府が原発事故を小さい物として取り扱おうとしていることがその実

施のための障害となっている。「まあいいじゃないか」というような姿勢を教育界が作り出さず、ウソや間違いを正すような質の高い教育のレベルを信念を持ってめざすことが、困難な問題を解決するのではないかと著者は述べる。このようなことはあまりにも課題が大きすぎて議論が避けられる傾向にあるが、ぜひ教育界での議論を望みたいと思う。

執筆を依頼した武田邦彦氏は、私なりの感覚で「総合力」を感じている「専門家」である。科学的知識だけでなく、広角な視野から取り込まれる知識が独

自の説得力を持っている。テレビにも多く出演し独特の言葉遣いから揚げ足を取るような批判も見られるが、事故当時から真実を知りたいと願う国民に向けてマスコミで報道されない情報を提供し、真実を知りたいと願う国民の側に立って独自の提言を発信し続けている真面目な科学者である。

今回は、「(科学と教育分野の) 専門家の(正しい) 知識を(一般読者に) 分かりやすく伝える」という構想であったが、狙いは一応具現化できたのではないかと考えている。

(ながとあきら/ななみ書房代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『使命 一証言 岩手県警の3・11』 ●岩手県警察本部監修

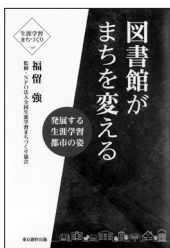


震災から千日が過ぎ、被災地は三度目の冬を迎えようとしているが、震災直後から県民を支えてきた岩手県警察の活動を忘れてはならない。日頃から「県民の生命、財産を守る」と肝に銘じていた警察官だが、想像を絶する災害に直面した時、彼らの苦悩や葛藤はどれだけ深いものだったのか。本書は内部資料としてまとめられた県内外の警察官の体験記から33編を選んだもの。避難誘

導や津波の中での救命と捜索、さらには犠牲者の身元確認など活動は多岐にわたる。無力さに愕然とする一方、被災者の感謝の言葉に胸を熱くする。「人間力」を試され、使命達成のために尽力した彼らから学ぶものは大きい。災害対策としても有効な教訓が詰まっている。

◆1260円・A5判・195頁・岩手日報社・岩手・2013/10刊・ISBN978-4-87201-412-9

『図書館がまちを変える 一発展する生涯学習都市の姿』 ●福留 強著



北海道旭川と網走を結ぶJR石北線の女満別に下り立つと、そこは北欧風レンガ造りの瀟洒な図書館駅、大空町立女満別図書館。美しい農村のランドマークとして賑わう図書館は住民の自慢であり、長年生涯学習を積極的に推進している町の看板である。

NPO法人全国生涯学習まちづくり協会理事長、内閣府地域活性化伝道師などの肩書をもつ著

者は、1千に及ぶ自治体のまちづくりに関わってきた。その経験から図書館がいかに地域づくりに役立つものであるか、20余の事例を示し、まちづくりの視点から図書館のあり方を提案する。図書館には今、地域の課題解決に向けての支援機能が期待されている。

◆1470円・四六判・228頁・東京創作出版・千葉・2013/10刊・ISBN978-4-903927-22-0

『蒸気機関車 誕生 一メカ異聞&製造工場見学記』 ●松尾定行著



大人から子供までを惹きつける蒸気機関車。けれどももう日本では蒸気機関車など作ってはいない…。多くの方はそう考えるでしょう。しかし昨年から今年にかけて、福島において蒸気機関車の新造が行われていました。

本書はその工程を追いかけた記録です。その会社でも新造は21年ぶりで容易なものではありませんでした。しかしこれを期に再び技術を継承

していきたいという思いがあり受注に踏み切ります。OBの力を借り、ひとつひとつ手作業で組み上げられていく機関車の姿からは、ものづくりにかける職人の奮闘ぶりが伝わってきます。蒸気機関車の走るしくみについても著者の丁寧な解説があり分かりやすい。

◆1680円・四六判・197頁・クラッセ・東京・2013/10刊・ISBN978-4-902841-17-6

『昭和の出版が歩んだ道』 ●能勢仁・八木壮一共著



関東大震災後の円本ブーム、太平洋戦争の年に誕生した国策取次会社・日配、戦後の日販や東販誕生からオイルショック、そして出版V A Nの胎動等々、昭和の出版史に残るエポックメイキングな出来事を様々な角度から取り上げる。1タイトルを2ページで完結させて読みやすくとともにコラムを付け加えることで話題に膨らみを持たせている。業界紙『新文化』に連載された「TIME

TRaVEL / 能勢仁の出版今昔物語」を単行本化したものだが、最終章には八木壮一氏による「バーゲンブック流通史」を収録。なお、この情報誌『アクセス』の発行元についても「地方・小出版流通センターの誕生」のタイトルでページが割かれている。

◆1890円・A5判・182頁・出版メディアパル・千葉・2013/11刊・ISBN978-4-902251-26-5

『万象の訪れ 一わが思索』 ●渡辺京二著



『逝きし世の面影』(和辻哲郎文化賞)、『黒船前夜』(大佛次郎賞)をはじめとする一連の著作で近代化の意味を問うてきた著者の、50年にわたる原稿の中から、短文ばかり101篇を集めて成書にしたのが本書である。一篇の多くが3~4頁なのできわめて読みやすい。文学や思想、歴史、経済、労働、生態学等々、広範囲に及ぶ関心事から、著者の思索、思想は何に共鳴して、どのよう

に鍛えられ形成されてきたのか、著者半生の軌跡がうかがえて本書の大きな魅力となっている。また、『潮の目録』(石牟礼道子)をはじめ、内外の多数の書物を取りあげ、自身との出会いや関係を述べ、心の触れ合う深い読み込みに圧倒される書評となっている。

◆2520円・A5判・329頁・弦書房・福岡・2013/10刊・ISBN978-4-86329-094-5

地小出版
方小出版

流通センター

ジャンル別
新刊案内

2013年11月1日~30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額(税込)表示です。

【雑誌】

- ◆季刊 メタポゾン 第10号 鈴木 康之編 A5 252頁 2100円 寿郎社 [北海道] 978-4-902269-65-9 13/11
- ◆ゆきのまち通信 149 企画集団ぷりずむ編 A5 50頁 500円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-20020-4 13/11
- ◆GREEN REPORT 407 廣瀬 仁編 A4 192頁 2800円 地域環境ネット [埼玉] 978-4-905457-39-8 13/11
- ◆くらしと教育をつなぐ We No. 187 稲邑 恭子編 中村 泰子、冠野 文編 A5 80頁 800円 フェミックス [神奈川]

- 978-4-903579-53-5 13/12
- ◆オルタ 446 田中 滋編 B5 17頁 315円 アジア太平洋資料センター [東京] 978-4-503-20027-3 13/11
- ◆Be! 113号 No. 135 今成 知美編 A5 111頁 840円 アスク・ヒューマン・ケア [東京] 978-4-901030-88-5 13/12
- ◆子どもの文化 No. 513 片岡 輝編 A5 48頁 305円 子どもの文化研究所 [東京] 978-4-503-20040-2 13/12
- ◆子どもと本 第135号 子ども文庫の会編 A5 52頁 620円 子ども文庫の会 [東京] 978-4-906075-39-3 13/10
- ◆茶道の研究 No. 696 三徳 庵編 A5 76頁 525円 三徳

- 庵 [東京] 978-4-503-20024-2 13/11
- ◆新しい家族 第56号 養子と里親を考える会編 B5 160頁 2625円 原人舎 [東京] 978-4-925169-56-1 13/10
- ◆東京かわら版 No. 482 佐藤 友美編 204mm×108mm 134頁 420円 東京かわら版 [東京] 978-4-503-20036-5 13/11
- ◆俳句四季 No. 436 松尾 正光編 西井 洋子編 B5 160頁 880円 東京四季出版 [東京] 978-4-503-20033-4 13/11
- ◆みんなの図書館 No. 440 図書館問題研究会編 A5 96頁 788円 図書館問題研究会 [東京] 978-4-503-20030-3 13/11
- ◆おりがみ No. 461 日本折紙協会編 A4 50頁 764円 日本折紙協会 [東京] 978-4-86540-003-8 14/01
- ◆海運 No. 1034 日本海運集会所編 A4 84頁 1260円 日本海運集会所 [東京] 978-4-503-20026-6 13/11
- ◆マクロビオティック No. 915 勝又 靖彦編 B5 80頁 630円 日本CI協会 [東京] 978-4-88921-186-3 13/12

売行良好書

期間：2013年11月16日～12月15日

トピックス — ★★

▼第29回梓会出版文化賞・特別賞に当センター取引出版社の赤々舎(現代写真・アート)、および深夜叢書社(文芸・アート・評論)が選ばれました。授賞式は2014年1月16日、出版クラブ会館にて。梓会出版文化賞は著者や作品ではなく出版社の活動そのものを顕彰するものです。

▼西武流通グループを率いてきた堤清二さん(筆名：辻井喬)がなくなりました。彼が生み育てた「セゾン文化」、その進展抜きに基礎盤の成立し得なかったと言っている小社のみならず、75年から80年代を通してこの国の文化と消費の場では様々な影響が見られたはず。一昨年の3月に刊行された「談No.90」800円 ISBN978-4-924349-24-7の特集がく辻井喬と戦後日本の文化創造～セゾン文化は何を残したのか>です。大沢真幸さんや香山リカさんらとの対談3本に彼の肉声がたっぷり収録された貴重なものです。

(地方・小出版流通センター通信 No.1315より)

▼当センターの年末年始の予定ですが、12/27(金)終業、1/6(月)始業です。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『つるかめ食堂』1470円・ベターホーム出版局 (2)『図書館がまちを変える』1470円・東京創作出版 (3)『未来ちゃん』2100円・ナノク社 (4)『パターン認識と機械学習の学習』1050円・暗黒通信団 (5)『光さんの贈りもの』3675円・大原哲夫編集室 (6)『フーリエの冒険 新装改訂版』3675円・言語交流研究所・ヒップファミリークラブ (7)『罫師 片桐邦雄』1680円・鉱脈社 (8)『昭和の貌』2310円・弦書房 (9)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社 (10)『万象の訪れ』2520円・弦書房 (11)『古民家ときめき再生』1575円・リーブル出版 (12)『昭和の出版が歩んだ道』1890円・出版メディアパル (13)『生活習慣病、予防への挑戦。』2100円・教育出版センター (14)『もやし屋』1785円・無明舎出版



[三省堂書店神保町本店 センター扱い図書] ※税込み価格


- (1)『昭和プロレスマガジン 31』1000円・昭和プロレス研究室 (2)『東京かわら版 12月号』420円・東京かわら版 (3)『捨てる女』1680円・本の雑誌社 (4)『おすすめ文庫王国 2014』798円・本の雑誌社 (5)『飲んだビールが5万本!』1470円・本の雑誌社 (6)『夜想 #少女』1260円・スタジオ・パラボリカ (7)『奥多摩東部登山詳細図 全88コース』800円・吉備人出版 (8)『戦国の城は民衆の危機を救った』1575円・揺籃社 (9)『出雲の山城』1890円・ハーベスト出版 (10)『古代の地形から『記紀』の謎を解く』2100円・海山社

[ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『ペコロスの母に会いに行く』1260円・西日本新聞社 (2)『西丹沢登山詳細図 全120コース』900円・吉備人出版 (3)『戦国の城は民衆の危機を救った』1575円・揺籃社 (4)『基地で働く』2000円・沖縄タイムス社 (5)『緑の祠』1785円・書肆侃侃房 (6)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社 (7)『石神秀幸のラーメンマップ東京1』1050円・幹書房 (8)『もやし屋』1785円・無明舎出版 (9)『北海道いい旅研究室14 book1』690円・海豹舎 (10)『越中中世城郭図面集3』5250円・桂書房 (11)『武蔵の古代史』2940円・さきたま出版会 (12)『神意』980円・読書館 (13)『戦国の境目』2625円・まつやま書房

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。

URL: <http://neil.chips.jp/chihosh/> ツイッター公式アカウント: @local_small



三省堂書店

営業の
ごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

